

ポイント

◆◆特集◆◆

★平成27年度道路交通管理統計の概要★

(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

道路交通管理統計は、毎年、全国の道路管理者に調査のご協力をいただいて作成し、道路の管理体制等を的確に把握するとともに、道路の実態に即した望ましい道路交通管理のあり方を検討するための基礎資料としている。

本稿においては、平成27年度調査の結果について検証し、今後の課題を探る。

◆◆訴訟事例紹介◆◆

★自転車で走行中に、集水枡の上で転倒し傷害を負った事故について、  
道路の設置・管理瑕疵が争われた事例★

〈平成28年4月20日 大阪高等裁判所判決〉

(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

【事案の概要】

本件は、原告が自転車を運転して被告の管理する集水枡の上を走行した際に、本件集水枡上部に開口部があり、周囲に路面のアスファルトが乗り上げ、凹型の溝状になっていたことにより、当該溝状部分に自転車の前輪がはまり込み、生じていた段差を乗り越えることができず転倒し傷害を負ったとして、被告に対し、国家賠償法2条1項に基づく損害賠償請求がなされたものである。

【判決要旨（棄却）】

集水枡は、周囲の路面の水や側溝から流れてきた水を集めるとともに、ごみや砂利が排水管に流れ込まないようにするために設置されるものであり、その上部に開口部を設け、周辺の路面より低くなるように設置する必要があることは否定できない。また、本件集水枡には、原告が主張するような大きな傾斜、くぼみ又は段差等は認められず、その形状がとりたてて危険なものではないことからすると、本件集水枡が通常有すべき安全性を欠いていたとはいえない。

◆◆TOPICS◆◆

★中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービスの実証実験★

(国土交通省 道路局 道路交通管理課 高度道路交通システム (ITS) 推進室)

近年めざましい発展を遂げている「自動運転」技術は、交通事故の削減や地域公共交通の活性化、渋滞の緩和や国際競争力の強化など、自動車及び道路を巡る諸課題の解決に大きな効果があると期待されている。国土交通省においても、平成28年12月に「国土交通省自動運転戦略本部」を設置し、関係部局が連携して各種施策に取り組んでいる。

本稿では、これらの取組の1つとして実施している「中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービスの実証実験」について、取組の背景や検討内容、現在までの実施状況について概説する。

---

## ◇◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◇

---

### ★高山国道の冬期道路管理の工夫について★

(国土交通省 中部地方整備局 高山国道事務所 神岡維持出張所)

円滑な冬期道路管理を進める上で、地域の皆様方の除雪作業に対するご理解・ご協力が不可欠であり、地域と一体となった取組みが非常に重要。

また、道路利用者に対するより効果的な情報提供（広報）のあり方と併せて、大規模な交通障害を発生させないための広報ターゲット・手法を考察することにより、冬期道路管理を安定的に実施する。

.....

### ★福岡県における道路管理について★

～H29 九州北部豪雨被災状況、路面下空洞調査、環状交差点の整備、  
道路法第37条第1項に基づく電柱の占用制限～

(福岡県 県土整備部 道路維持課)

福岡県では、本年7月「平成29年九州北部豪雨」により大規模な災害が発生しました。本稿では、被災状況のほか、本県の維持管理の取組として、路面下空洞調査、環状交差点の整備、道路法第37条第1項に基づく電柱の占用制限についてご紹介します。

.....

### ★北九州市における道路管理について★

～アンダーパスの安全対策、自転車走行空間の整備、道路照明灯の維持管理～

(北九州市 建設局道路維持課)

北九州市では、安全・快適な道路空間を創出するため、様々な取組みを行っています。本稿では、近年積極的に取り組んできた「アンダーパスの安全対策」、「自転車走行空間の整備」、「道路照明灯の維持管理」について御紹介します。

## ◆◆編集後記◆◆

「子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥」。これら 12 種の動物たちは、年賀状やカレンダーにデザインされることも多く、私たちにとってとても身近な存在であり、たとえ、自動運転や人工知能が活躍する世の中が来ようと、年の瀬には、「来年の干支（えと）って何だっけ？」という話題が出ることでしょう。また、同じ干支生まれの人には、一週り、二週りの年が離れていても、数字の存在を超えて親しみを感じさせてくれる不思議な動物たちです。

この 12 種の動物たちについては、お釈迦様のお見舞いに到着した順であるとか、新年の挨拶に到着した順という民話を耳にしたことがあります。どのような経緯でこれらの動物たちが選ばれ、配されたのかは、明らかになっていないようです。今では、これら 12 種の動物たちのことを干支と表現することが多くなっていますが、本来、干支とは、十干（じっかん）という「甲（きのえ）・乙（きのと）・丙（ひのえ）・丁（ひのと）・戊（つちのえ）・己（つちのと）・庚（かのえ）・辛（かのと）・壬（みずのえ）・癸（みずのと）」と、先述の十二支（じゅうにし）とよばれる 12 種の動物を組み合わせたものをさし、組み合わせると 60 年で一周りします。そのため、干支が一巡して生まれ年の干支に還る年を還暦といい、長寿のお祝いをする風習があります。ちなみに、来年の干支は、戌戌（つちのえいぬ）です。

干支は、中国から伝わったといわれ、殷墟から発掘された甲骨文に刻されていたことから、その歴史は大変古いものとなります。また、わが国では、暦の表記として日本書紀に記されていることから、少なくとも奈良時代から用いられてきたようです。暦のほか、方角や時刻を表すものとしても用いられ、身近なものでは、「午（うま）」の刻が昼の 12 時であったことから、1 日の前半を午前、後半を午後というようになったようです。また、節分には、その年の福德を司る神様、歳徳神の在位する方角である恵方に向けて太巻き寿司を食する風習があり、この恵方は、十干によって決まるとのことです。

新年を迎えるにあたり、知っているようで知らなかった干支について調べてみましたが、当たり前のように使っている言葉や用語であっても、実はよく理解できていない言葉や事象がたくさんあると気づきました。来年も、たくさんのことを学び、習得できる一年にしたいと思います。(U)